



## 緑の感謝祭で認定 NPO 法人江戸城天守を再建する会と共同活動！！

5月9日(土)、10日(日)と2日間にかけて東京日比谷公園にて開催した「緑の感謝祭」、認定NPO法人江戸城天守を再建する会様のブースにて当会も出店しました。ブースにてパンフレットや資料など計300部づつ配布させて頂きましたが、2日目の15時頃には全て配布終了、会場に詰めかけたお客様

の関心度の高さが伺えました。既に開催した見学会「歴史と文化財をめぐるツアー」の資料を一部100円で限定販売し、寄付金を集めましたところ計3900円のご寄付を頂きました。又、「小田原城も頑張ってください」との暖かい応援メッセージも頂きました。誠に感謝しております！ご寄付は必ず小田原城天

守の再建費用として活用させて頂きます！！会場に安土城天守の再建を目指す方々のご来場もあり、既に連携をしている高松城様も含めて。今後江戸城、小田原城、高松城、安土城と連携を結んで共に活動して行きたいと思っております。皆様ご支援のほど宜しくお願い致します。（山本 篤志）

## “みどりの感謝祭”で天守再建を訴える 小田原城、高松城、安土城も参加

農水省、林野庁、東京都、国土緑化推進機構などが主催した「第25回森と花の祭典：みどりの感謝祭」が5月9～10日、東京・日比谷公園で行われました。江戸城、高松城はじめ、今回は小田原城、そして安土城再建を目指すNPO設立関係者も参加され、天守再建への熱気に包まれた雰囲気の中で、展示ブースを訪れた多くの人から

「ぜひ天守再建を」とのご支援を頂きました。江戸城天守を再建する会が感謝祭に参加したのは、日本は世界に冠たる森林大国であり、その森林資源と木造建築技術を日本が保有している、この事実を木造天守の再建で、世界に知らせることが出来れば、という思いからでした。ブースの中では、江戸城天守の模型、再建根拠となる寛永度

天守「建立割」図などが掲示され、江戸城、小田原城、高松城を紹介した各リーフレットなど配布され、500人を超える賛同署名（江戸城関係）も頂きました。私たちは今後も、各お城と手を結び、全国へ天守再建を訴えて行きます。

(認定NPO法人

江戸城天守を再建する会

理事 土屋繁)



←当日の様子

## 森を再生する「お城力」

### NPO 法人フォレストフリーク代表理事 緒方 秀行

「伐(き)る・使(う)う・植(え)る」。人が木を利用するための行為が社会的に機能してさえいれば、森は守られる。ところが、杉・ヒノキをめぐる機能不全は小田原も例外ではない。むしろ鬱々たる空気すら孕んでいた。「経済林の再生へ知恵を貸してもらえないか」。小田原市役所から水を向けられたのは5年前のこと。山々に根を張る杉・ヒノキの大半は伐期を超えている。「伐り、使い、植えれば良い」と答えたものの、事がそう単純ではないことは熟知していた。折しも小田原城の耐震化が取り沙汰されていた。市民が地元材を率先して買うような仕組みに重点を置いたアイデアを提示した。

「小田原城の再建を掲げよう。『お城材』と名付け、かつての城地へと伐採を拡大しよう」。果たしてお蔵入りとなったが、「小田原城の木造化」は、ずっと心にくすぶり続けていた。ハルネ小田原で4月25日に当法人が主催した「シンポジウム～小田原城 新普請」は、「市民は『木造化』に冷たいのでは？」という疑問が契機だった。市民が旗を振りつつ、耐用年数を超えた小田原城の行く末を議論し、木造化の是非や手法を共に考え、費用捻出へと歩みを進める。その筋道は「森林からのアプローチ」とも言えた。



シンポジウムの様子 哲学者内山節を迎えて

鉄筋コンクリート造から「木造」へ。戦後70年を迎えたからこそ、今を「瓦一枚運動再び」の好機と捉えるべきではなからうか。樵、大工、左官、瓦、建具、襖、畳・・・、小田原城の再建は、ありとあらゆる和の職人の結集だけでなく、建築技術や文化、芸術の継承をもたらすだろう。市民の新たな絆のあり方も具現化するに違いない。

無論、森林の再生も。

(小田原市 池上)

## 「みんなでお城をつくる会」総会に参加して

2年前に西宮から何も知らない小田原に引越して来て、好奇心の赴くまま色々な所に顔を出して地元の勉強に努めている。「みんなでお城をつくる会」にも一昨年から参加させて貰っていて今年は総会に出席した。事業報告、決算・予算などの議事に続いて行われた「天守木造化の可能性を考える」をテーマにしたトークセッションが興味深いものであった。現在の小田原城天守閣は主に「東大模型」と「大久保模型」(いずれも天守閣1階に展示している)の二つを参考にして設

計し、鉄筋コンクリートで昭和35年に完成したものであるが、その後の研究から、東京国立博物館の所有で現在は神奈川県立歴史博物館に展示されている「東博模型」が一番良い模型であることが判明した。今年7月から実施する現天守閣の耐震化工事の際にもこの模型を参考にして最上階に摩利支天を祀る空間を新たに作るとのことであった。また市の大島文化財課長が天守閣木造化のためには国の史跡指定を受けているので文化財保護法の制約がある上に①木材資源、②

職人、③建築基準法、④財源措置、⑤市民の支持などの諸問題をクリアしなければならないので行政と市民の協力が必要であると説明した。この点について、会は既に理事長名で天守木造化可能性検証のための組織を庁内に設けるよう市議会議長あてに要望書を提出して居り、1月27日の厚生文教常任委員会で報告されたのを当日委員会の傍聴をした私は聞いているが、委員の関心の程は測り難い。

(石井 義高)

▼総会後のトークセッション



▼懇親会



## 理事就任のご挨拶

私は辻村家八代目となりますが、  
 当家が小田原市西部に所有する  
 山林は、江戸時代にお殿様から拝  
 領した藩有林を起源としています。  
 山中には 1700 年代に小田原藩が  
 植林した林分が現存しており、樹  
 齢 300 年前後に成長した杉の大木  
 が威容を見せております。私は、お  
 城の再建には復元の意味合いを  
 持たせるべきであり、そこに木造化

の意義があると考えております。江  
 戸時代の姿に、形だけでは無く当  
 時の空気感までも復元出来れば、  
 より深い意味合いを込める事が可  
 能ではないでしょうか。その為には、  
 当時の小田原の空気を年輪の中  
 に留め、その後の小田原の気候や  
 歴史の変遷を見届けて来た里山の  
 樹を使って木造再建する事が、必  
 須であるとの強い想いを持ち続け

ています。そうした事を踏まえて、  
 お殿様から拝領した樹を小田原城  
 の天守復元にご用立てを出来る様  
 に、微力ながら当会の活動の一助  
 を担って参る所存です。今後共何  
 卒よろしくお願い申し上げます。  
 (株式会社 T-FORESTRY  
 代表取締役 辻村 百樹)

## 私の小田原城

私が小田原に引っ越してきたの  
 が今から50数年前、新玉小学校  
 に入学して出来た友達とピカピカ  
 の真っ白な小田原城の石垣に登っ  
 て遊んでいました。崩れた瓦の中  
 からなんとなく割れていないもの  
 を見つけて集めていたことを思い出  
 します。お城の下にはどんぐりが転  
 がっていて空き缶にいっぱい詰め  
 て、通りかかったおじさんにお前た  
 ちそれをどうするんだと聞かれて答  
 えられなかったこと、藤棚の池で“  
 さきいか”を餌にザリガニを釣って  
 家に持って帰ると母親に叱られた  
 こともありました。小田原城は単純  
 に自分たちの遊び場で難しい歴史  
 や過去はどうでもいいことでした。

大人になって歴史を学び現在のお  
 城が建設されたいきさつを知り、そ  
 うなのかと思いつつも小田原城は  
 僕らの遊び場であって欲しい気持  
 ちは残っている。取り立ててお城に  
 詳しいわけでもないが姫路城に行  
 って現地のガイドさんの話や築城  
 以来残っている芯柱の説明を聞き、  
 建替えた木造の熊本城を見ると  
 真新しい木材を使っても歴史  
 や何か訴えるモノを感じると、小田  
 原城も本物になって生まれ変わる  
 と私にとって大人の遊び場になる  
 のかな？なんて単純な気持ちでお  
 城の会の門を叩いた。皆さん真剣  
 に歴史を学び、築城に対して真摯  
 な研究をしている姿を見て驚くと同

時に、私の遊び場から遠ざかって  
 行くような感覚も正直なところして  
 います。単純に行かないことは十  
 分わかっているつもりですが、会  
 中には単純に木造のお城が見た  
 い！という人間がいてもいいのかな  
 という思いで理事を引き受けました。  
 今のままでいいやと思う方も多く  
 います。私の中にもそういう気持ちも  
 ありました。ただ本物に触れるとそ  
 の感動は全く違ってくると思ってい  
 ます。私にはお金も力も有りませ  
 んが、本物のお城を建てたいという  
 単純な思いだけはあるつもりです  
 で、今後ともよろしく願います。  
 (株式会社 エスアールシー  
 代表取締役 古川 達高)



## 「お城をつくる会」をご友人に紹介しませんか！

ご友人に「小田原城が好きな方」「是非お城をつくる会をご紹介したい方」「ボランティアをしてくださる方」「募金箱を設置してくださる方」が いらっしゃいましたら、お名前、ふりがな、電話番号をご記入頂き、お城の会事務局までFAX(0465-46-8944)を下さい。事務局からご友人へご連絡させていただきます。

個人賛助会員大・大・大募集！！  
年会費1口:3,000円からご入会いただけます。  
(入会金はございません)

※個人正会員は、入会金:20,000円、年会費:20,000円でございます。

紹介者(会員様)のお名前:

ご友人のお名前	ふりがな	電話番号

### About Us

ご案内



特定非営利活動法人

「みんなでお城をつくる会」

〒250-0004 神奈川県小田原浜町1-1-46

<http://www.odawara-oshiro.com>

Tel/Fax: 0465-46-8944

Mail: [info@odawara-oshiro.org](mailto:info@odawara-oshiro.org)